

国立大学法人信州大学の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成19年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

本学が定める役員に支給する期末特別手当(賞与)について、文部科学省国立大学法人評価委員会が本学に対し実施した業績評価の結果を勘案し、学長が当該手当額を10%の範囲内で増減できることとしている。なお平成19年度は当該手当への反映はしていない。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長

給与構造の改革を基調とした改正を実施。
地域手当の支給割合を1%から1.76%に引き上げた。
(改定時期:平成19年4月1日)

理事

給与構造の改革を基調とした改正を実施。
地域手当の支給割合を1%から1.76%に引き上げた(1名については、旧調整手当異動保障後の支給率を適用)。
(改定時期:平成19年4月1日)

理事(非常勤)

該当者なし

監事

給与構造の改革を基調とした改正を実施。
地域手当の支給割合を1%から1.76%に引き上げた。
(改定時期:平成19年4月1日)

監事(非常勤)

改定なし

2 役員の報酬等の支給状況

| 役名 | 平成19年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | | 前職 |
|-------------|----------------|--------------|----------|--|----------|----|----|
| | 千円 | 報酬(給与) 千円 | 賞与 千円 | その他(内容) 千円 | 就任 | 退任 | |
| 法人の長 | 18,383 | 12,792 | 5,253 | 24 (通勤手当) 225 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | | | |
| A理事 | 16,459 | 11,064 | 4,544 | 568 (通勤手当) 194 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | | | |
| B理事 | 8,092 | 5,532 | 2,374 | 97 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | 10月1日 | | |
| C理事 | 16,315 | 11,064 | 4,544 | 423 (通勤手当) 195 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | | | |
| D理事 | 16,167 | 11,064 | 4,544 | 276 (単身赴任手当) 194 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | | | |
| E理事 | 15,915 | 11,064 | 4,544 | 24 (通勤手当) 194 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | | | |
| F理事 | 13,574 | 8,736 | 3,841 | 908 (地域手当) 89 (寒冷地手当) | | | ◇ |
| 監事 | 12,528 | 8,736 | 3,588 | 153 (地域手当) 51 (寒冷地手当) | | | ※ |
| 監事 (非常勤) | 1,855 | 1,855 | 0 | 0 | | | |

注1:「地域手当」とは、民間賃金の高い地域に在勤している者、又は本法人赴任直前に民間賃金の高い地域に在勤していたことにより、給与の調整がなされていた者に対し支給されているものである。

注2:「前職」欄の「◇」は役員出向者を、「※」は独立行政法人等の退職者であることを示す。

3 役員の退職手当の支給状況(平成19年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分 | 支給額(総額) 千円 | 法人での在職期間 年 月 | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘要 | 前職 |
|-------------|---------------|-----------------|-------|-------|-------|----|
| 法人の長 | | | | | 該当者なし | |
| 理事 | | | | | 該当者なし | |
| 監事 | | | | | 該当者なし | |
| 監事 (非常勤) | | | | | 該当者なし | |

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

常勤職員については、中期目標期間中における運営費交付金の年度展開を見据えて、学内に設置された人事調整委員会が各部局、職種ごとの職員定数を設定し、かつ調整を図ることにより効率的な定員管理を行い、部局人事委員会等と連携して実効性のある運用を行なう。非常勤職員については運営費交付金の交付状況及び外部資金等の獲得状況を見据えて、各部局において厳正に管理する。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

原則として国家公務員の給与制度を基本として本学における給与制度を構築しているため、人事院勧告の内容を考慮するとともに、運営費交付金の状況並びに教職員配置の状況等を踏まえ給与水準を決定する。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

本学が独自に定める勤務評定制度による個別評価に基づき、当該評価の結果を勤勉手当(賞与)の支給率決定、査定昇給による昇給幅の決定、昇格並びに降格の実施の可否に反映させる。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目 | 制度の内容 |
|------------------|--|
| 賞与:勤勉手当 (査定分) | 6月1日及び12月1日の各基準日に在職する職員に対し、基準日以前6箇月以内の期間における個々の勤務成績に応じた割合によって支給される。 |
| 基本給:昇給 (査定分) | 原則として現在の基本給を受けた日から12箇月間良好な成績で勤務した時、4号給(平成20年1月1日については3号給。)上位の号給に昇給させることができる。勤務成績が極めて良好な職員及び特に良好な職員については、前述にかかわらず各々の昇給区分に応じ上位の号給に昇給させることができる。 |
| 基本給:昇格 | 特に勤務成績が優秀な者のうち、本学就業規則に定める昇進をした者及び本学が独自に定める基準に該当する者について、同人の職務の級を、同一の基本給表における上位の職務の級に変更することができる。 |
| 基本給:降格 | 勤務成績が著しく不良である場合等本学就業規則に定める降職させるに十分な要件を満たした者について、同人の職務の級を、同一の基本給表における下位の職務の級に変更することができる。 |

ウ 平成19年度における給与制度の主な改正点

平成19年の人事院勧告及び給与構造改革を基調とした給与制度の改正を行なった。

(実施時期:平成19年4月1日(⑦を除く))

①基本給【俸給】

初任給を中心に若年層に限定した引き上げを行なった。

②職務調整額【俸給の調整額】

基本給表の水準引き上げとの整合性を確保し改定を行なった。

③扶養親族手当【扶養手当】

3人目以降の子等の支給額を1,000円引き上げるとともに(5,000円→6,000円),子等に係る支給月額を500円引き上げた(6,000円→6,500円)。

④地域手当

支給割合を1%から1.76%へ引き上げた(本法人赴任直前に民間賃金の高い地域に在勤していたことにより給与の調整がなされていた者を除く)。

⑤広域異動手当(新設)

交流採用者について,交流前後の勤務箇所間の距離及び住居と勤務箇所との間の距離のいずれもが60km以上となる職員に対し,その距離に応じて基本給等の3%又は6%を支給(19年度は2%又は4%)。

⑥管理職手当【俸給の特別調整額】

一般職基本給表及び看護職基本給表の適用を受ける職員について,従来の定率制から基本給表別・級別・適用区分別の定額制とした。

⑦勤勉手当

12月期の勤勉手当の支給割合を100分の77.5に引き上げた。

注:【】内は国家公務員給与制度における名称

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成19年度の年間給与額(平均) | | | |
|----------------------|-------|------|------------------|--------|--------|-------|
| | | | 総額 | うち所定内 | うち通勤手当 | うち賞与 |
| 常勤職員 | 1795 | 43.9 | 7,035 | 5,085 | 45 | 1,950 |
| 事務・技術 | 409 | 42.9 | 5,578 | 4,076 | 72 | 1,502 |
| 教育職種 (大学教員) | 839 | 48.8 | 8,828 | 6,316 | 41 | 2,512 |
| 医療職種 (病院医師) | 該当者なし | | | | | |
| 医療職種 (病院看護師) | 369 | 34.3 | 4,763 | 3,506 | 25 | 1,257 |
| 技能・労務職種 | 10 | 55.3 | 5,424 | 3,926 | 63 | 1,498 |
| 医療職種 (病院医療技術職員) | 74 | 42.6 | 5,563 | 4,066 | 49 | 1,497 |
| 教育職種 (附属高校教員) | 17 | 41.6 | 7,548 | 5,563 | 37 | 1,985 |
| 教育職種 (附属義務教育学校教員) | 68 | 41.1 | 7,366 | 5,435 | 24 | 1,931 |
| その他医療職種 (看護師) | 5 | 48.3 | 5,523 | 3,997 | 64 | 1,526 |
| 指定職種 | 4 | 61.5 | 15,076 | 10,774 | 24 | 4,302 |
| 非常勤職員 | 46 | 32.6 | 3,379 | 2,706 | 24 | 673 |
| 事務・技術 | 9 | 41.7 | 3,376 | 2,516 | 48 | 860 |
| 教育職種 (大学教員) | 1 | | | | | |
| 医療職種 (病院医師) | 8 | 27.8 | 3,716 | 3,716 | 3 | 0 |
| 医療職種 (病院看護師) | 該当者なし | | | | | |
| 技能・労務職種 | 2 | | | | | |
| 医療職種 (病院医療技術職員) | 25 | 29.2 | 3,251 | 2,465 | 22 | 786 |
| 研究職種 | 1 | | | | | |

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2:本法人には「在外職員」「任期付職員」「再任用職員」の各区分に該当する職員はいないため、表を省略した。

注3:非常勤職員の「教育職種(大学教員)」、「技能・労務職種」及び「研究職種」については、該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

注4:「技能・労務職種」とは、自動車運転手、看護助手等をさす。

注5:「教育職種(附属高校教員)」とは、附属養護学校教員をさす。

注6:「教育職種(附属義務教育学校教員)」には、附属幼稚園教員を含む。

注7:「指定職種」とは、役員以外の副学長、学部長(博士課程を置く学部に限る)をさす。

注8:「研究職種」とは、e-Learning研究員をさす。

〔年俸制適用者〕

| | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
|----------------|----|------|-------|-------|----|----|
| 非常勤職員 | 95 | 35.1 | 3,571 | 3,571 | 2 | 0 |
| 医療職種 (病院医師) | 75 | 32.5 | 3,219 | 3,219 | 2 | 0 |
| 教育職種 (特定雇用) | 1 | | | | | |
| 特任教授 | 8 | 57.8 | 4,854 | 4,854 | 0 | 0 |
| 助教(診療) | 11 | 36.0 | 4,955 | 4,955 | 0 | 0 |

注1:本法人には年俸制を適用する「常勤職員」「在外職員」「任期付職員」「再任用職員」の各区分に該当する職員はいないため、表を省略した。

注2:年俸制を適用する非常勤において、事務・技術、教育職種(大学教員)、医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)、技能・労務職種、医療職種(病院医療技術職員)及び研究職種については、該当する職員がないため、記載を省略した。

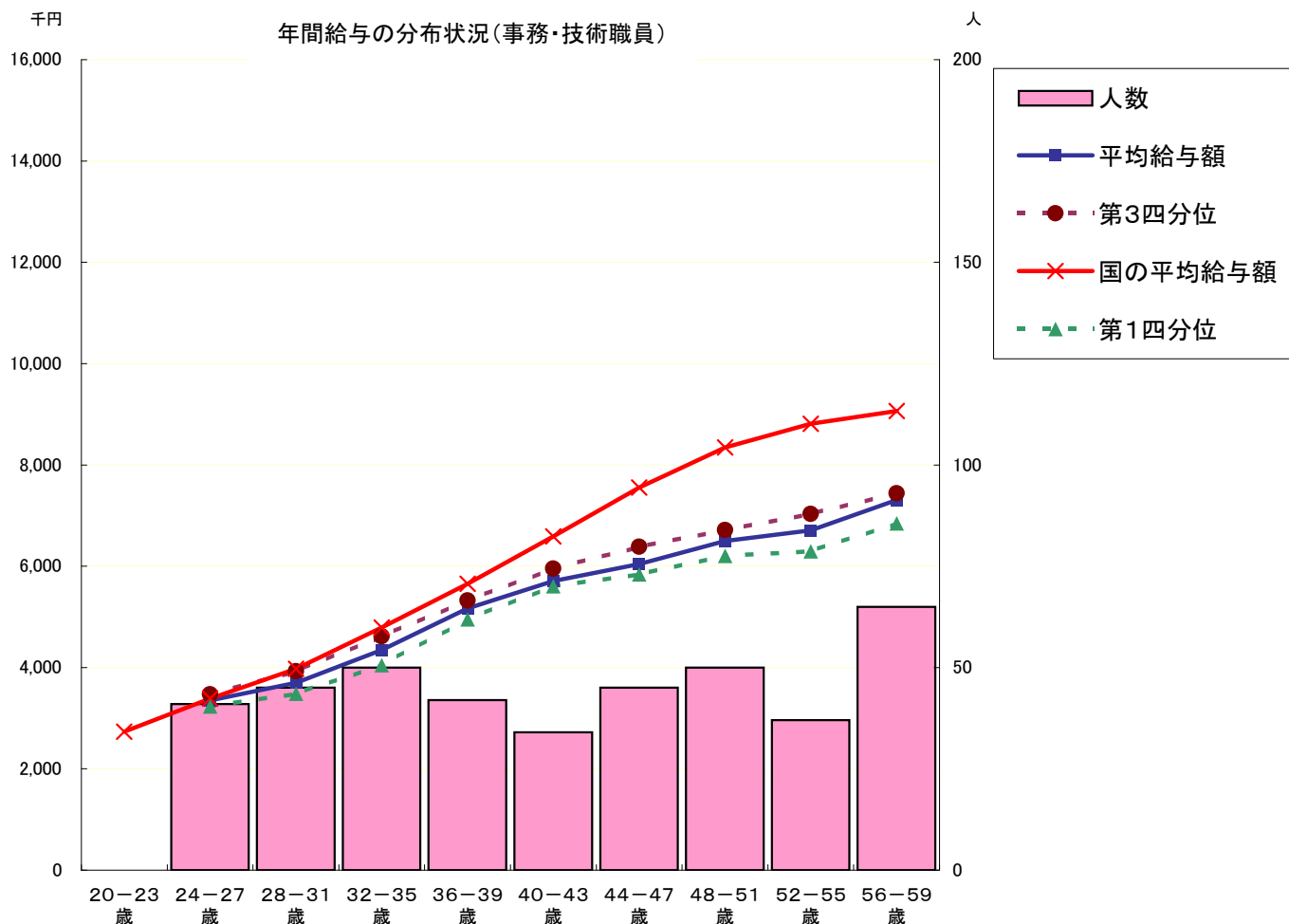
注3:「教育職種(特定雇用)」については、該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

注4:「教育職種(特定雇用)」とは、学長が認定するプロジェクト等を行なう教育職員をさす。

注5:「特任教授」とは、高度な研究プロジェクト等の統括又は高度な専門職教育及び研究を行なう教育職員をさす。

注6:「助教(診療)」とは、医学部附属病院において、研究活動のほか教育及び研究に係る診療活動に従事する者をさす。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))[在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]

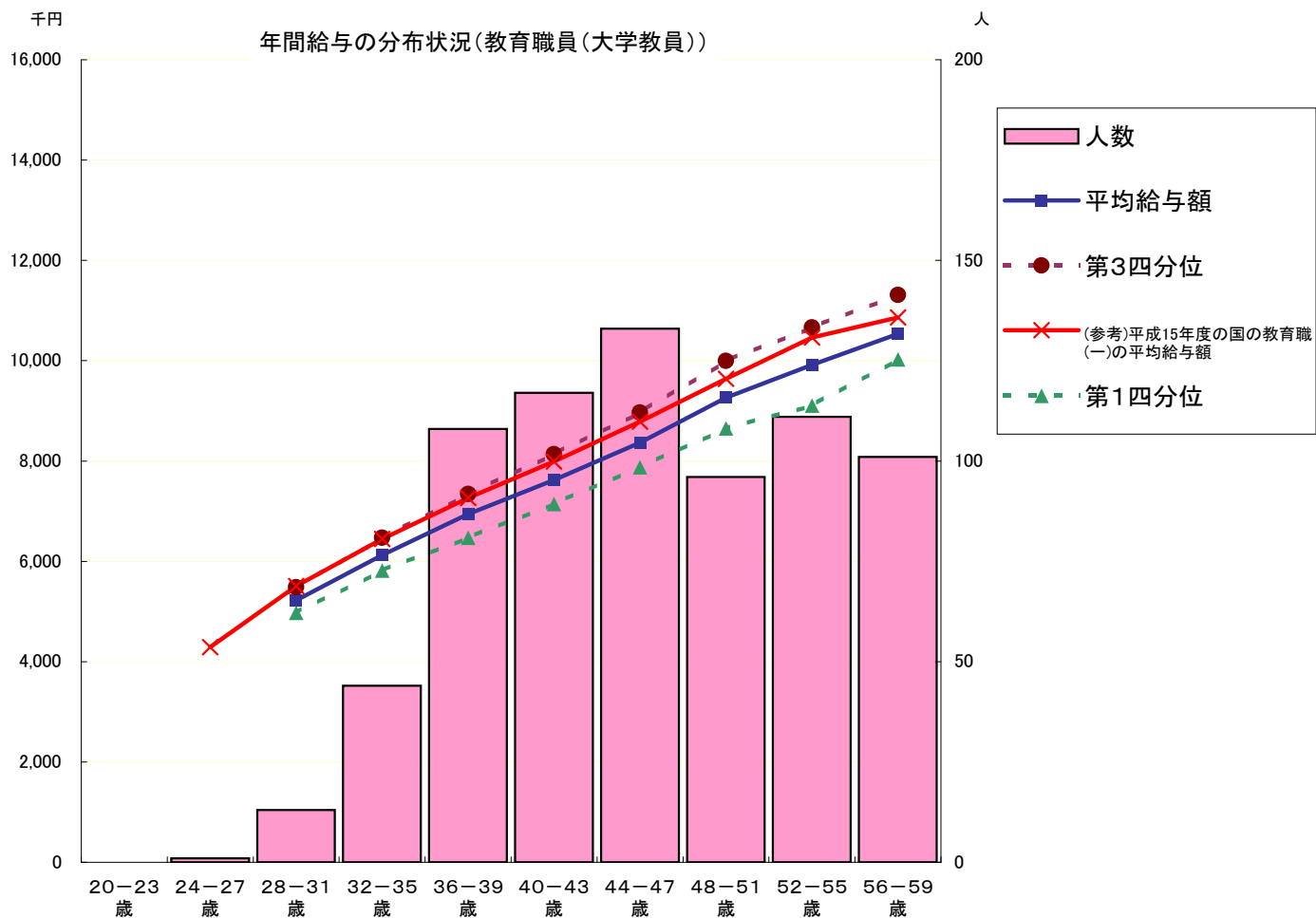


注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

(事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | 平均 | 四分位 |
|-------------|-----|------|-------|--------|-------|
| | | | 第1分位 | | 第3分位 |
| 代表的職位 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 部長 | 3 | 55.8 | — | 10,491 | — |
| 課長 | 20 | 56.1 | 7,532 | 8,272 | 8,792 |
| 課長補佐 | 37 | 55.0 | 6,739 | 6,954 | 7,159 |
| 主査 | 150 | 49.0 | 5,895 | 6,301 | 6,716 |
| 主任 | 79 | 39.2 | 4,497 | 5,027 | 5,564 |
| 係員 | 120 | 31.4 | 3,352 | 3,797 | 4,019 |

注:「課長」には、課長相当職である「副学部長(事務担当)」,「副館長(事務担当)」を含む。

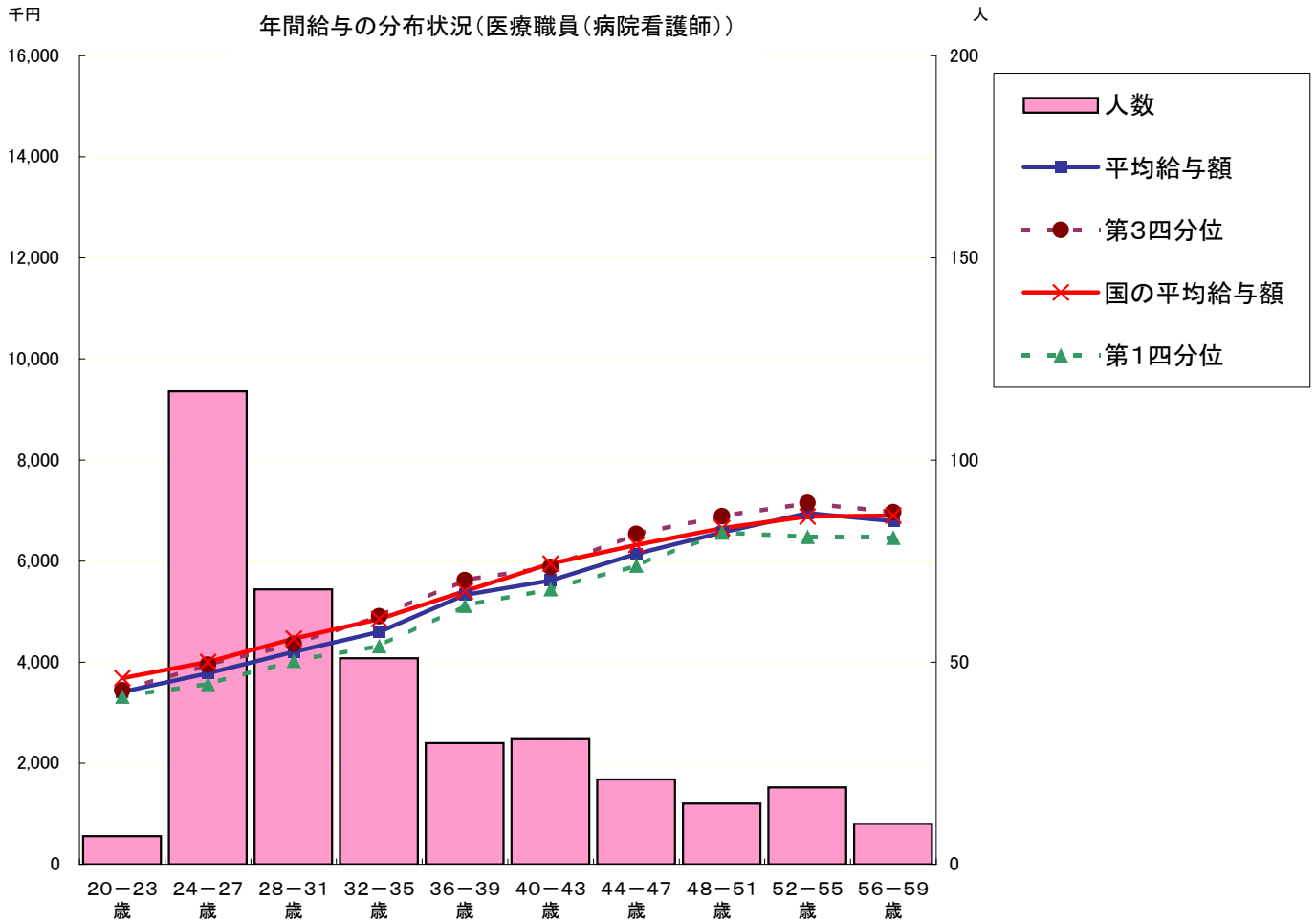


注:年齢24~27歳の該当者は1人であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与については表示していない。

(教育職員(大学教員))

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | |
|-------------|-----|------|-------|--------|--------|
| | | | 第1分位 | 第3分位 | |
| 代表的職位 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 教授 | 344 | 56.1 | 9,808 | 10,501 | 11,129 |
| 准教授 | 279 | 45.5 | 7,716 | 8,229 | 8,825 |
| 講師 | 66 | 43.6 | 6,925 | 7,519 | 8,389 |
| 助教 | 141 | 40.1 | 6,139 | 6,512 | 6,929 |
| 助手 | 8 | 38.5 | 4,368 | 5,357 | 5,806 |
| 教務員 | 1 | — | — | — | — |

注:教務員の該当者は1名のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年齢及び年間給与の平均額は表示していない。



(医療職員(病院看護師))

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | 平均 | 四分位 |
|-------------|-----|------|-------|-------|-------|
| | | | 第1分位 | | 第3分位 |
| 代表的職位 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 看護部長 | 1 | | — | | — |
| 副看護部長 | 3 | 50.8 | — | 7,305 | — |
| 看護師長 | 25 | 48.8 | 6,494 | 6,697 | 7,063 |
| 副看護師長 | 50 | 43.4 | 5,549 | 5,957 | 6,567 |
| 看護師 | 288 | 31.2 | 3,784 | 4,316 | 4,600 |
| 准看護師 | 2 | | — | | — |

注:看護部長及び准看護師の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年齢及び年間給与の平均額は表示していない。

③ 職級別在職状況等(平成20年4月1日現在)(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 |
|----------------|-----|----------------|----------------|--------------------|-------------------------------|--|
| 標準的な職位 | | 係員 | 主任 係員 | 主査 技術専門職員 主任 | 課長補佐 副学部長補佐 技術専門員 主査 | 課長 副学部長(事務担当) 副館長(事務担当) 技術専門員 主査 |
| 人員 (割合) | 409 | 57 (13.9%) | 83 (20.3%) | 177 (43.3%) | 56 (13.7%) | 26 (6.4%) |
| 年齢(最高～最低) | | 49～24 | 55～26 | 58～35 | 59～48 | 59～39 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | 3,356～2,140 | 4,041～2,471 | 5,405～3,116 | 5,534～4,187 | 7,060～4,832 |
| 年間給与額(最高～最低) | | 4,474～2,922 | 5,503～3,373 | 7,327～4,318 | 7,598～5,858 | 9,434～6,848 |

| 区分 | 6級 | 7級 | 8級 | 9級 | 10級 |
|----------------|-------------------------------|------------------|------------------|--------------|--------------|
| 標準的な職位 | 課長 副学部長(事務担当) 副館長(事務担当) | 部長 副病院長(事務担当) | 部長 副病院長(事務担当) | 学長が認める職務 | 学長がその都度認める職務 |
| 人員 (割合) | 7 (1.7%) | 2 (0.5%) | 1 (0.2%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) |
| 年齢(最高～最低) | 59～52 | ～ | ～ | ～ | ～ |
| 所定内給与年額(最高～最低) | 6,966～6,187 | ～ | ～ | ～ | ～ |
| 年間給与額(最高～最低) | 9,429～8,457 | ～ | ～ | ～ | ～ |

注:7級及び8級における該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(教育職員(大学教員))

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 |
|----------------|-----|--------------|-----------------|---------------|-----------------|-----------------|
| 標準的な職位 | | 助手 教務員 | 助教 | 講師 | 准教授 | 教授 |
| 人員 (割合) | 839 | 2 (0.2%) | 148 (17.6%) | 66 (7.9%) | 279 (33.3%) | 344 (41.0%) |
| 年齢(最高～最低) | | ～ | 63～25 | 62～30 | 64～32 | 64～41 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | ～ | 5,666～2,716 | 7,182～3,685 | 7,430～4,101 | 9,499～5,759 |
| 年間給与額(最高～最低) | | ～ | 7,711～3,763 | 9,623～5,006 | 10,167～5,791 | 13,363～8,213 |

(教育職員(大学教員))

| | |
|----------------|-------------------|
| 区分 | 6級 |
| 標準的な職位 | 学長が認める職務 |
| 人員 (割合) | 人 0 (0.0%) |
| 年齢(最高～最低) | 歳 ～ |
| 所定内給与年額(最高～最低) | 千円 ～ |
| 年間給与額(最高～最低) | 千円 ～ |

注:1級における該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(医療職員(病院看護師))

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 |
|----------------|----------|-------------------|----------------------|---------------------|--------------------|-------------------|
| 標準的な職位 | | 准看護師 | 看護師 保健師 助産師 | 副看護師長 | 看護師長 | 副看護部長 |
| 人員 (割合) | 人 369 | 人 2 (0.5%) | 人 288 (78.0%) | 人 50 (13.6%) | 人 25 (6.8%) | 人 3 (0.8%) |
| 年齢(最高～最低) | | 歳 ～ | 歳 58～23 | 歳 59～33 | 歳 58～40 | 歳 53～46 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | 千円 ～ | 千円 5,027～2,420 | 千円 5,257～3,158 | 千円 5,267～4,048 | 千円 5,936～4,782 |
| 年間給与額(最高～最低) | | 千円 ～ | 千円 6,928～3,306 | 千円 7,281～4,320 | 千円 7,376～5,663 | 千円 8,119～6,752 |

| 区分 | 6級 | 7級 |
|----------------|-------------------|-------------------|
| 標準的な職位 | 看護部長 | 看護部長 |
| 人員 (割合) | 人 1 (0.3%) | 人 0 (0.0%) |
| 年齢(最高～最低) | 歳 ～ | 歳 ～ |
| 所定内給与年額(最高～最低) | 千円 ～ | 千円 ～ |
| 年間給与額(最高～最低) | 千円 ～ | 千円 ～ |

注:1級及び6級における該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

④ 賞与(平成19年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % 64.6 | % 66.1 | % 65.4 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 35.4 | % 33.9 | % 34.6 |
| | 最高～最低 | % 42.7～32.6 | % 43.3～31.1 | % 42.8～31.8 |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 65.8 | % 67.4 | % 66.7 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 34.2 | % 32.6 | % 33.3 |
| | 最高～最低 | % 41.1～31.2 | % 35.4～29.6 | % 36.8～30.4 |

(教育職員(大学教員))

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % 65.1 | % 66.8 | % 66.0 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 34.9 | % 33.2 | % 34.0 |
| | 最高～最低 | % 37.1～32.6 | % 35.4～31.0 | % 36.2～31.7 |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 65.9 | % 67.5 | % 66.8 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 34.1 | % 32.5 | % 33.2 |
| | 最高～最低 | % 37.1～31.7 | % 35.4～30.0 | % 36.2～30.8 |

(医療職員(病院看護師))

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % | % | % |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % | % | % |
| | 最高～最低 | % | % | % |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 65.4 | % 67.0 | % 66.3 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 34.6 | % 33.0 | % 33.7 |
| | 最高～最低 | % 37.1～31.8 | % 35.4～30.3 | % 34.8～31.0 |

注: 医療職員(病院看護師)における管理職員は2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから記載していない。

⑤ 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

| | |
|----------------|------|
| 対国家公務員(行政職(一)) | 83.7 |
| 対他の国立大学法人等 | 96.4 |

(教育職員(大学教員))

| | |
|------------|------|
| 対他の国立大学法人等 | 95.8 |
|------------|------|

(医療職員(病院看護師))

| | |
|----------------|------|
| 対国家公務員(医療職(三)) | 95.8 |
| 対他の国立大学法人等 | 99.9 |

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

| 項目 | 内容 | |
|-------------------------|---|--|
| 指数の状況 | 対国家公務員 | 83.7 |
| | 参考 | 地域勘案 88.4 学歴勘案 83.8 地域・学歴勘案 88.3 |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | — | |
| 給与水準の適切性の検証 | 【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 40.3% (国からの財政支出額 18,165百万円、支出予算の総額 45,034百万円：平成19年度予算) | |
| | 【検証結果】 本学における国の財政支出額は100億円を上回っているが、対国家公務員指数は100未満であり、累積欠損もないことから、適正な給与水準であると考えられる。 | |
| | 【累積欠損額について】 累積欠損額 0円(平成18年度決算) | |
| 講ずる措置 | 【検証結果】 — | |
| | 対国家公務員指数ならびに参考指数はいずれも100を下回っており、今後も適正な給与水準の維持に努める。 | |

○医療職員(病院看護師)

| 項目 | 内容 | |
|-------------------------|---|--|
| 指数の状況 | 対国家公務員 | 95.8 |
| | 参考 | 地域勘案 94.1 学歴勘案 95.2 地域・学歴勘案 95.0 |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | — | |
| 給与水準の適切性の検証 | 【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 40.3% (国からの財政支出額 18,165百万円、支出予算の総額 45,034百万円：平成19年度予算) | |
| | 【検証結果】 本学における国の財政支出額は100億円を上回っているが、対国家公務員指数は100未満であり、累積欠損もないことから、適正な給与水準であると考えられる。 | |
| | 【累積欠損額について】 累積欠損額 0円(平成18年度決算) | |
| 講ずる措置 | 【検証結果】 — | |
| | 対国家公務員指数ならびに参考指数はいずれも100を下回っており、今後も適正な給与水準の維持に努める。 | |

○教育職員(大学教員)と国家公務員(平成15年度の教育職(一))との給与水準(年額)の比較指標 95.6

III 総人件費について

| 区 分 | 当年度 (平成19年度) | 前年度 (平成18年度) | 比較増△減 | 中期目標期間開始時 (平成16年度)からの増△減 |
|---------------------|------------------|------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 給与、報酬等支給総額 (A) | 千円 15,368,949 | 千円 15,644,593 | 千円 (%) △ 275,644 (△ 1.8%) | 千円 (%) △ 245,313 (△ 1.6%) |
| 退職手当支給額 (B) | 千円 2,181,958 | 千円 1,685,924 | 千円 (%) 496,034 (29.4%) | 千円 (%) 513,538 (30.8%) |
| 非常勤役職員等給与 (C) | 千円 3,303,672 | 千円 2,800,733 | 千円 (%) 502,939 (18.0%) | 千円 (%) 1,101,657 (50.0%) |
| 福利厚生費 (D) | 千円 2,200,342 | 千円 2,263,119 | 千円 (%) △ 62,777 (△ 2.8%) | 千円 (%) 61,620 (2.9%) |
| 最広義人件費 (A+B+C+D) | 千円 23,054,921 | 千円 22,394,369 | 千円 (%) 660,552 (2.9%) | 千円 (%) 1,431,502 (6.6%) |

注1:「退職手当支給額」欄は、国の常勤職員に相当する、法人の常勤職員に係る退職手当支給額を計上している。

注2:「非常勤役職員等給与」においては、寄付金、受託研究費その他の競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「17役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

総人件費について参考となる事項

①前年度との比較

- ・給与、報酬等支給総額 (△275,644千円)

平成19年人事院勧告を踏まえた改正による増額があった一方で、定年退職者の後任補充を抑制したこと、また、後任者が低年齢層になったことにより年間給与額が減少したことが要因である。

- ・最広義人件費 (+660,552千円)

前年度と比べて定年退職者が増加し、退職手当支給額が増加したことや、附属病院における機能強化により看護師等を増員したことが主な要因である。

②人件費削減の取組状況について

- ・「行政改革の重要方針(平成17年12月24日閣議決定)」において示された総人件費改革の実行計画を踏まえ、人件費削減の取組を行なう。
- ・総人件費改革の実行計画を踏まえ、平成21年度までに概ね4%の人件費の削減を図る。

総人件費改革の取組状況

| 年 度 | 基準年度 (平成17年度) | 平成18 年度 | 平成19 年度 |
|--------------------|------------------|------------|------------|
| 給与、報酬等支給総額 (千円) | 15,970,437 | 15,644,593 | 15,368,949 |
| 人件費削減率 (%) | | △ 2.0 | △ 3.8 |
| 人件費削減率(補正值) (%) | | △ 2.0 | △ 4.5 |

注1:基準年度(平成17年度)の給与、報酬等支給総額は、法人移行時の人件費予算相当額を基礎に算出した平成17年度人件費予算相当額である。

注2:「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月25日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率であり、平成18年、平成19年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%である。

IV 法人が必要と認める事項

特になし